

仙台市秋保温泉における訪日外国人観光客の受け入れ態勢

Reception Attitudes for Foreign Tourists in Akiu Onsen, Sendai City

半澤 佑紀¹・鈴木 富之²

HANZAWA Yuki, SUZUKI Tomiyuki

¹宇都宮大学地域デザイン科学部卒業生

²宇都宮大学地域デザイン科学部講師

仙台市秋保温泉における訪日外国人観光客の受け入れ態勢

Reception Attitudes for Foreign Tourists in Akiu Onsen, Sendai City

半澤 佑紀¹・鈴木 富之²

HANZAWA Yuki, SUZUKI Tomiyuki

本稿の目的は、秋保温泉旅館組合や民間企業などにおける外国人観光客の誘致に向けた取り組みと秋保温泉の宿泊施設における外国人観光客の受け入れ態勢を分析し、それを踏まえて秋保温泉において外国人観光客が増加した要因について考察をすることである。秋保温泉旅館組合では、タイへの積極的なプロモーション活動やQRコードを用いた翻訳ガイドの作成、人気 YouTuber を起用し動画制作などの誘致事業を展開している。一方、秋保温泉の宿泊施設は訪日外国人観光客の受け入れに積極的な宿泊施設(外国人観光客受け入れ積極型宿泊施設)と消極的な宿泊施設(外国人観光客受け入れ消極型宿泊施設)に分類できる。2010年代半ば以降に秋保温泉で訪日外国人観光客数が増加した要因として、①日本人宿泊者の減少に伴い宿泊施設が訪日外国人観光客の受け入れに重点を置くようになったこと、②秋保温泉が仙台空港や仙台駅、有名な観光資源への近接性が優れていたこと、③台湾人の日本への関心が高いこと、④タイ人に特化した秋保温泉旅館組合のPR事業が行われていることの4点が指摘できた。

キーワード：訪日外国人観光客、インバウンド・ツーリズム、宿泊施設、秋保温泉、仙台市

I. はじめに

1. 研究の目的

2000年代以降、日本政府の積極的な観光誘致策の効果より、日本を訪れる外国人観光客は大幅に増加した。政令指定都市である宮城県仙台市においても年々数字は伸び続けている。仙台市の西部に位置する秋保温泉では、2010年代半ば以降に外国人観光客が日本らしい風景や文化を求めて、知名度が低い地方を旅行先に選ぶケースが増加したことに加え、2016年に秋保温泉の旅館がG7(仙台財務大臣・中央銀行総裁会議)の開催地に選ばれ注目度が上昇した。秋保温泉では、秋保温泉旅館組合および各宿泊施設がG7開催に向けて外国人観光客受け入れのための環境整備を進めており、G7終了後もそれらを活かして外国人の集客に取り組んでいる。

そこで、本稿では、秋保温泉旅館組合や民間企業などにおける外国人観光客の誘致に向けた取り組みと秋保温泉の宿泊施設における外国人観光客の受け入れ態勢を分析し、それを踏まえて秋保温泉において外国人観光客が増加した要因について考察をする。

¹ 宇都宮大学地域デザイン科学部卒業生

² 宇都宮大学地域デザイン科学部講師 t.suzuki@cc.utsunomiya-u.ac.jp

2. 調査対象地域

調査対象地域である秋保温泉は、宮城県仙台市太白区秋保町湯元（旧国陸奥国、明治以降は陸前国）に位置する温泉であり、宮城県の鳴子温泉、福島県の飯坂温泉とともに奥州三名湯の1つとされている¹⁾。また、古くは「名取の御湯」と呼ばれ、長野県の野沢温泉（犬養の御湯）や別所温泉（信濃の御湯）と並んで「日本三御湯」の1つに数えられた。源泉数は17ヶ所存在し、泉質はナトリウム・カルシウム塩化物泉である。神経痛や筋肉痛、関節痛によいとされる。

所要時間は仙台駅から車で約30分、仙台空港から株式会社タケヤ交通の仙台西部エアポートライナーで約40分である。近年は「車で30分の100万都市仙台のリゾート地」と謳っており、宿泊者数は県内で最も多く、日帰りは松島に次いで2番目の入込客数を誇る。秋保温泉の強みは家族旅行をはじめアウトドア、湯治、社員旅行など多様なニーズに対応できることである。

II. 秋保温泉の歴史と外国人宿泊客数の動向

1. 秋保温泉の歴史

1) 古代～江戸期

秋保温泉は6世紀半ば欽明天皇が皮膚病を患った際にこの温泉の湯を用いたところ全快し、「御湯」の称を与えたことに由来し、古代以来に「名取の御湯」の名で知られた温泉である²⁾。

江戸時代に秋保温泉を「湯守」として管理していたのは湯本村の佐藤家であった。佐藤家の系譜によると、秋保温泉は佐藤家の先祖が開発した温泉だと伝えられており、そのような経緯もふまえて仙台藩により佐藤家が湯守の職に任じられたものだと考えられている。「湯守」というのは温泉の源泉の管理を行い、かつ入湯者から「湯銭」という税を徴収し藩に上納する役目を負っていた。そのほか、湯治客が利用する宿を営することも義務づけられていた。この頃の湯治客は自炊をしながら滞在するのが一般的であったため、湯守は「木銭」と称された燃料代を徴収し、炊事や食事のための道具類の貸し出しを行っていた。江戸時代初期において秋保温泉に入湯する者は年間数十人であったが、江戸時代を通じて湯治に訪れる人数は増加傾向にあった。宿泊した延べ人数は享和年間（1801～1804）に年間6,000人から9,000人であり、1807年（文化4）には約1万700人に達しているとの記録がある。

2) 明治期～現在

明治期以降、仙台市の発展に伴って「仙台の奥座敷」として繁栄した。高度成長期やバブル経済期にかけて高層の大型観光ホテルが相次いで完成し、団体旅行で賑わっていた。しかし、バブル崩壊に伴い大人数の団体旅行は激減し、施設の維持管理費の負担に困窮する旅館が増加した。さらに、2011年3月に東日本大震災が発生した。秋保温泉は山間部に位置しているため、津波の被害はなか

ったものの、激しい揺れにより建物の損傷がみられた。しかも、秋保温泉は地元客が大半を占める温泉であるため、顧客も震災で被害を受けたことから宿泊客数は減少した。

2016年5月に宮城の震災復興をアピールするため、G7が佐藤家が経営する老舗の温泉旅館である「佐勘」で開催されることが決定する。G7は金融当局だけでなく、各局の報道関係者ら約800人が集まる国際イベントである。そこで、佐勘の社長であるA氏は2015年の10月から社内で外国人対応研修を開始した。仙台観光国際協会から外国語指導助手（ALT）を派遣してもらい、フロントやラウンジ、売店などを担当する社員に英語での受け答えを指導するなど外国人の受け入れの準備を進めた。

2. 外国人宿泊客数の推移

1) 秋保温泉の外国人宿泊数とその内訳

2013年以前の外国人宿泊客数は500人程度にとどまっていたが、全体的に2014年から2017年にかけて国際会議などが開催されたことで世界からの注目度が上がり大きく伸びをみせている（図1）。2019年の外国人宿泊数は7月までの計測で既に4,000人を超えており、前年度（2018年）の外国人宿泊数の6,370人を超すと予測されている。

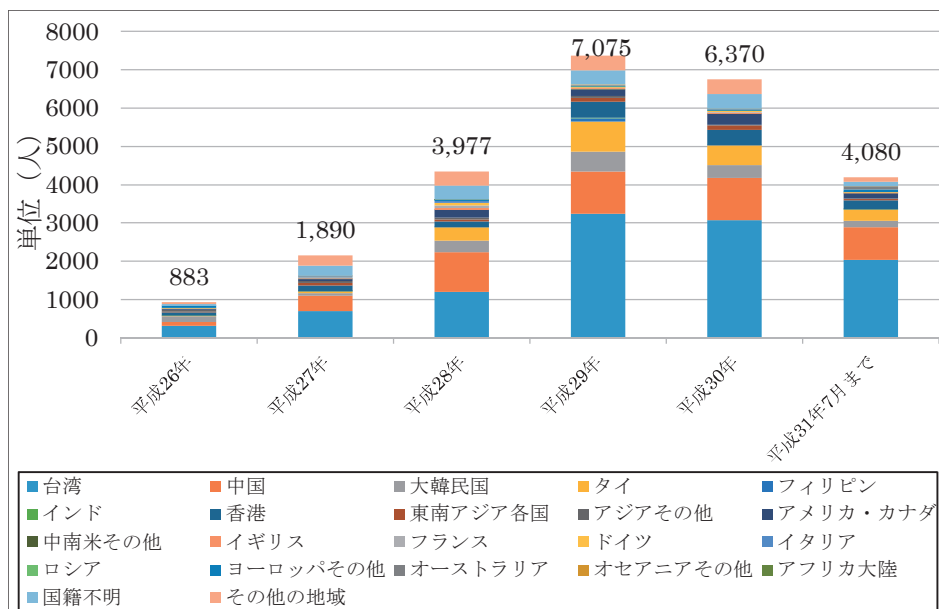


図1 秋保温泉の外国人宿泊数とその内訳

(秋保温泉旅館組合提供資料により作成)

全体的にアジア圏からの宿泊者がほぼ大半を占めている。台湾からの直行便が増えていることもあり、台湾からの宿泊者が最も多い。2番目に多いのが中国であり、次いで2015年からプロモーション

ョンに直接訪れていることも影響し、タイが3番目に位置する。2019年10月末から仙台空港においてバンコクとの直行便が就航しているため、今後さらにタイからの観光客数が増加することが予想される。また、アメリカとカナダからの来訪者数はアジア圏からの宿泊者と比較すると少ないが、増加傾向にある。2018年における月別にみた外国人宿泊者数をみると、桜の季節である4月と紅葉がみられる10月の宿泊者数が多い(図2)。

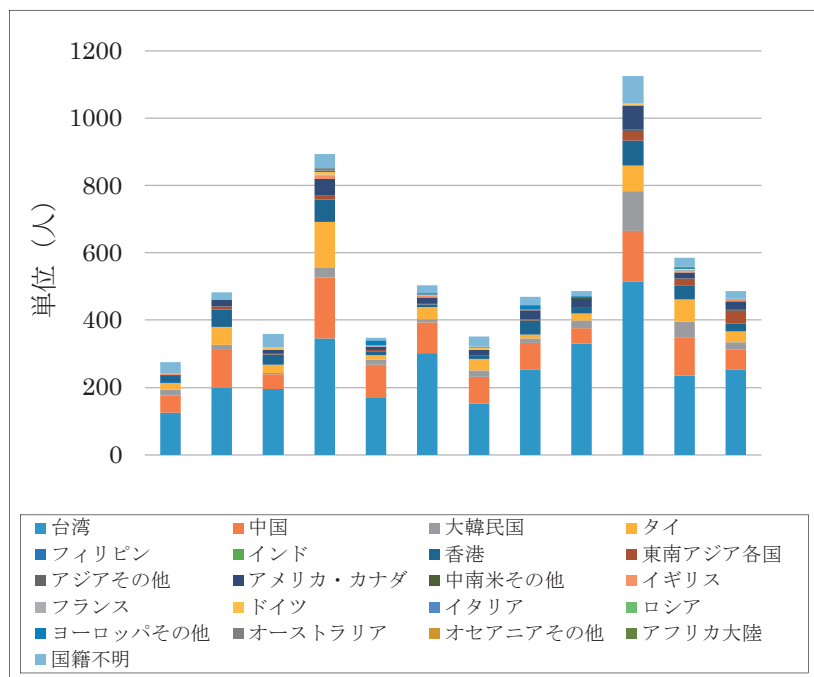


図2 月別外国人宿泊者の月別宿泊者数と国別内訳

(秋保温泉旅館組合提供資料により作成)

2) 宮城県の主要温泉地との外国人宿泊者数の比較

外国人宿泊者数のデータを入手することができた宮城県内の3つの主要温泉地について比較する(図3)。なお、作並温泉については、2016~2018年の3年間のみ計測が行われた。

松島温泉では、2017年から2018年にかけて外国人宿泊者数が約2,700人増加した。宮城県松島町産業観光課観光班の「宮城県松島町におけるインバウンドの取組について」³⁾によると、訪日外国人の受入体制整備や英語での情報発信、海外要人への対応、外国人が参加するイベントのサポートなどを担うCIR(国際交流員)の雇用を行うなどの取り組みを展開している。作並温泉では、2017年に7,212人を記録したが、翌年に減少している。3地域とも全体的に外国人宿泊者数は増加傾向にある。とくに、外国人宿泊者は2016年~2018年の過去3年間において、主に秋保温泉と作並温泉を宿泊地として選択する傾向にあることがわかる。

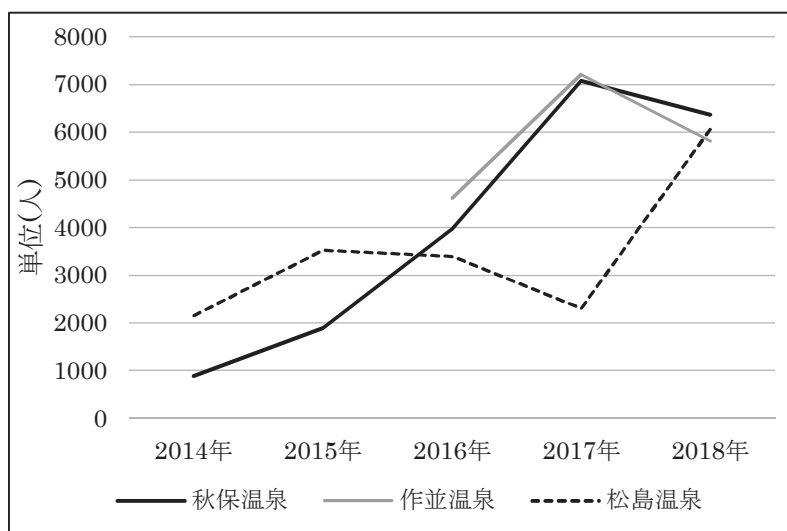


図3 宮城県の主要温泉地における外国人宿泊者数の推移

(仙台市文化観光局観光交流部誘客戦略推進課提供資料、秋保温泉旅館組合提供資料、松島町産業観光課提供資料により作成)

Ⅲ. 秋保温泉における訪日外国人観光客誘致に向けた取り組み

Ⅲ章では、2019年8月2日に実施した秋保温泉旅館組合への聞き取り調査および秋保温泉組合実施事業冊子をもとに、秋保温泉旅館組合と民間企業などによる訪日外国人観光客誘致に向けた取り組みについて述べる。

1) 秋保温泉旅館組合における訪日外国人誘致に向けた取り組み

1961年に宮城県仙台市長町と名取郡秋保村(現・仙台市太白区秋保町)をつなぐ秋保電気鉄道が廃止され、仙台からの観光客が減ることを危惧し同年に結成された。旅館業法により旅館として登録している施設で秋保温泉旅館組合に加盟しているのは現在12軒である。

同組合では基本事業戦略として人材育成事業、誘客促進事業、食文化推進事業、インバウンド対応事業の4つを推進している。秋保温泉旅館組合において、インバウンド事業が開始したのは2011年の東日本大震災後である。2012年から『世界リゾート秋保』インバウンド対応事業』として、インバウンド観光に詳しい有識者とともに旅館や秋保の観光地域の現地視察を実施している。秋保温泉旅館組合が行っている主なインバウンド事業は以下の通りである。

①QRコードを用いた多言語ガイドの作成

秋保温泉旅館組合では外国人観光客受け入れのため、QRコードを利用した多言語ガイドを作成している。2016年に開催されるG7に備えて仙台市と連携し、2015年に秋保地区内の観光名所の説明(看板に記載)と温泉旅館の利用方法の説明(客室に置く)の2種類のQRコードを作成した。

この事業については全額組合が出資している。スマートフォンで日本語を含め9ヶ国語（英・日・中・韓・タイ・仏・ベルギー・伊・露）で説明をみることができる。QRコードは訪日外国人観光客に限らず日本人観光客の利用も多い。2015年は年間アクセスが1,000未満であったが、G7の開催された2016年には年間を通してアクセス数は4,000以上であった。

②秋保の魅力を発信するYouTubeの作成

また、秋保の魅力を世界へ発信するため動画を2本作成し、YouTubeにて公開している。YouTubeにおけるPR事業は100万円ずつ秋保温泉旅館組合と仙台市から出資して作成された。

2014年に作成された「踊ろうぜ、AKIU」は、秋保に暮らす人々や観光に携わる人々に踊り手として出演してもらい、複数の秋保の観光スポットで踊り、秋保の良さをPRする作品である。AKB48やアニメ「プリキュア」シリーズに楽曲提供している仙台在住のヒザシ氏がオリジナル楽曲を製作し、振り付けは振付師でタレントの前田健氏に委託した。この観光PVは日本語、タイ語、英語、中国語の4ヶ国語で公開されている。現在の再生回数は12,000回である（2019年12月時点）。

2018年には「伊達なYouTuberプロモーション」として、日本文化や日本各地の観光地を紹介する動画が人気を博しているフォロワー数142万人越え（2019年12月時点）の人気YouTuberクリスを起用した。仙台西部地区と秋保の魅力を伝える「Staying at 1,000 Year Old Japanese Hot Spring Resort」をクリスの「Abroad in Japan」というチャンネル内で公開した。前述した、「アキウツーリズムファクトリー」に関わるB氏とタッグを組み、動画内でニッカウキスキー、秋保ワイナリーのアルコールツーリズム、秋保温泉の魅力を紹介している。前編英語で日本語は字幕のみであり、そのほかタイ語、簡体字、繁体字、ハングル、ドイツ語、フランス語など11カ国の字幕も作成されている。この動画の現在の再生回数は53万回である（2019年12月時点）。

③ニュージーランドでの研究事業

2018年には「『観光大国に学ぶ』世界先進地研究事業」として、秋保の強みとして今後伸ばしていきたいワインツーリズムや自然を使ったツアーが人気な観光先進国であるニュージーランドへ訪れている。秋保らしさの演出、体験コンテンツの整備、創出のために秋保の将来像を構築するための仕組みづくりに関する情報収集が行われた。

④タイへのプロモーション事業

2019年現在、秋保温泉旅館組合はタイに重点を置いた誘致活動を行っている。仙台市観光課から人脈のパイプを受け継いだことからタイとのプロモーションを開始するに至った。2019年10月末には仙台空港にて仙台―バンコク間の直行便の就航が始まり、今後さらにタイからの観光客の増加が予想される。タイの有力な旅行会社を招いての秋保観光セミナーの実施や、マスコミ訪問などのパイプ作りを官民連携して実施している。また、秋保温泉旅館組合ではタイと仙台市との連携事業や商談会にも積極的に参加している。

さらに、仙台ーバンコク間の就航が始まり、仙台空港から秋保まで運行するエアポートライナーも本数を増やしている。バスの発着時間をバンコクとの LCC 便（ローコストキャリア）の発着時間に合わせて設定することが今後の課題となっている。タイからの観光客は富裕層が多く、LCC の利用は少ないため、今後バス会社との協議を検討しているとのことであった。

2) 秋保温泉におけるニューツーリズムの展開

近年、魅力ある観光資源や様々な体験型観光を充実させることに重点を置き、ニューツーリズムに着手している事例がみられる。2017 年に社長に仙台市内で企画会社を運営する C 氏が代表取締役を務める観光まちづくり会社「アキウツーリズムファクトリー」を設立した。さらに、活動拠点として江戸時代後期の古民家を改修しカフェ「アキウ舎」をオープンした。レンタサイクル、ガイドと秋保を巡る里山サイクリングツアーなども実施している。今後は秋保の田植え踊りを学ぶワークショップや、アルコールツーリズムとして秋保ワイナリーで生産されたワインを活用したイベントなどを開催予定である。

近年では、秋保温泉では自転車で観光施設や寺社、カフェを巡り、その後温泉で汗を流すサイクルツーリズムが人気である。秋保温泉ではサイクルツーリズムを促進するため、秋保・里センターや仙台市観光課によって秋保のサイクリングマップがいくつか作成されている。マップは英語版も作成されており、外国人観光客のなかには自国から自転車を持参して秋保の自然を楽しむ人も存在する。外国人のレンタサイクルの利用は台湾人が多いとのことであった。

今後、宮城県のアウトドアアクティビティ会社 2 社がそれぞれ二口溪谷でのキャニオリングと秋保大滝での滝つぼダイビングを実施予定である。しかし、国指定名勝である大滝でのダイビングは地元住民の反対も大きく、今後住民との話し合いを兼ねながら実現させていくとのことである。秋保温泉の観光資源の発掘を目的として、アキウツーリズムファクトリーは連携を図ることを検討している。

3) 訪日外国人をターゲットにした宿泊施設の開業

秋保地区では、秋保温泉旅館組合長で「佐勘」社長の A 氏が、2016 年 5 月にビジネス客やバックパッカーなど海外からの宿泊客をターゲットとして「KYOU BAR ROUNGE & INN」を開業した。「KYOU BAR ROUNGE & INN」は、もともと海外からの観光客を狙った宿泊施設として開業したのではなく、G7 開催にあたって会議関係者の宿泊施設が不足したことから整備された建物である。2016 年に行われた G7 の際に各国の VIP はもちろん、警備のための警察官や各国のマスコミも数多く秋保温泉に訪れた。そこで、マスコミ関係者の収容のために当時の佐勘の女子寮を改築し宿泊施設へと整備を行った。その際、警察官については小中学校の体育館を宿泊場所として開放

することで宿泊場所を補った。

全室に浴室とトイレがついていないアウトバスで、温泉大浴場が備えられている。限られた面積で部屋数を増やし、工事やメンテナンスのコストを削減したことで1泊5,000円（税別）と温泉ホテルとしては低料金を実現した。館内のバーラウンジは宿泊客だけではなく、地元住民も利用できる地域交流型スペースとして整備されている。

IV. 秋保温泉の宿泊施設における訪日外国人観光客の受け入れ態勢

筆者は2019年に秋保温泉の宿泊施設18軒にアンケートを配布し、回収部数は11であった。回収率は61%である。今回、回答を得た11軒の宿泊施設を「施設で外国人旅行者の集客に取り組んでいますか。」という問いに対し「はい」と回答した宿泊施設7軒と、「実施していないが今後検討」「取り組む予定はない」と回答した宿泊施設4軒の2つに分類した。前者を「外国人観光客受け入れ積極型宿泊施設」、後者を「外国人観光客受け入れ消極型宿泊施設」とする。

1. 外国人観光客受け入れ積極型宿泊施設における訪日外国人観光客の受け入れ態勢

全7軒の外国人観光客受け入れ積極型宿泊施設を宿泊施設A、宿泊施設B、宿泊施設C、宿泊施設D、宿泊施設E、宿泊施設F、宿泊施設Gとする。そのうち宿泊施設A～Fの6軒が秋保温泉旅館加盟旅館、宿泊施設Gの1軒が秋保温泉非加盟旅館であった。

1) 訪日外国人観光客の誘致に着手した理由

外国人観光客受け入れ積極型宿泊施設の7軒において、「なぜ外国人観光客を受け入れていますか。理由を教えてください。」という問いに対して、「海外からのインバウンドのお客様が年々全国的に増えているなか、当館でも多様な国々からのお客様をお迎えし、お客様層の底上げ、サービス向上につなげたい」（宿泊施設A）、「売り上げ、販路拡大のため」（宿泊施設B）、「インバウンド政策への対応、集客増加のため」（宿泊施設C）、「国内旅行者のみで成長できる幅は限られているから」（宿泊施設D）「特にお断りする理由がないから」（宿泊施設G）との回答が挙がった。

全体的に集客増加につなげたいとの意見が多い。仙台市において、近年外国人観光客数は年々大幅に増加している。受け入れに着手することにより、外国人観光客を秋保温泉に取り込み宿泊施設の稼働率を上げることが各宿泊施設の狙いであると推測される。一方で、宿泊施設Aでは「外国人旅行者を受け入れてサービス改善につなげたい」という、外国人の受け入れによるさらなる接客の質の向上に対して前向きな回答もみられた。

2) 宿泊施設における訪日外国人観光客誘致に向けた取り組み

① 宿泊施設における訪日外国人観光客誘致に向けた取り組み

外国人観光客誘致のために宿泊施設が実施している取り組みをみると（表 1）、全宿泊施設が実施しているのは Expedia、Booking.com などの「海外インターネット予約サイトへの登録」である。海外の宿泊予約サイトへの登録は、インターネットを活用して宿泊施設を検索する外国人が施設を知るきっかけとなり、訪日外国人の集客増加のために欠かすことはできない。財務省が 2018 年 9 月に行った調査⁴⁾によると、インバウンド観光客の約 55%は宿泊施設を個人で手配しており、そのうちの約 70%はインターネット経由であることが明らかになっている。しかし、サイト内で他の宿泊施設と比較されるため、差別化や値段を割安にして勝負する必要がある。そこで、上記でも述べたように旅行情報源としてインターネットを主に活用する外国人に対して、5 軒が実施している「外国人版 HP の開設（自社）」が宿泊予約サイトのみでは伝えることのできない宿泊施設の魅力を伝える重要な宣伝媒体になっていると考えられる。また、「外国人版 HP の開設（自社）」の対応言語を調査すると（表 2）、宿泊施設 D、宿泊施設 E、宿泊施設 F が英語での開設であるのに対し、宿泊施設 A と宿泊施設 B は英語に加えて秋保温泉で集客数の多い国・地域の言語に合わせた開設を行っていることがわかった。

宿泊施設 G 以外の 6 軒が共通して取り組んでいるのが「Wi-Fi などインターネット接続環境の整備」であることがわかる。2017 年に観光庁が実施した「訪日外国人旅行者の国内における受入環境整備に関する調査」⁵⁾において、調査対象の訪日外国人旅行者（回答数 5,332 件）のうち 53.8%が「無料公衆無線 LAN」を通信手段として利用していることが明らかになっている。また、日本滞在中に役だった旅行情報源として「インターネット（スマートフォン）」と回答したのが全体の 64.5%であることから、訪日外国人観光客にとってインターネット接続環境が整備されていることは、観光に欠かすことのできない必要条件であると考えられる。

「コンベンション団体とのイベントの出席」、「日本文化体験プログラムの導入」、「SNS での情報発信」、「海外の旅行雑誌やフリーペーパー等への掲載」の取り組みはどの宿泊施設も着手していない。すなわち、外国人観光客受け入れ積極型宿泊施設の取り組みとしては内部体制の整備と、旅行会社へのセールス、インターネット戦略の展開が主であることがわかる。

外国人観光客受け入れ積極型宿泊施設の 7 軒のなかでも、宿泊施設 A のように内部体制の整備とインターネット戦略に加えて国内外の旅行代理店へのセールスを行うなど、積極的に訪日外国人観光客の受け入れに取り組む旅館と、宿泊施設 D のように内部体制の整備とインターネット戦略に留まる旅館に 2 分類され、集客に対する意欲の差がみられる。インバウンド事業に力を入れる秋保温泉旅館組合加盟旅館のなかでも外国人観光客誘致に対する意識は異なっていると推測される。

表1 外国人観光客受け入れ積極型における外国人観光客誘致の取り組み

	宿泊 施設 A	宿泊 施設 B	宿泊 施設 C	宿泊 施設 D	宿泊 施設 E	宿泊 施設 F	宿泊 施設 G
外国人版 HP の開設 (自社)	○	○	×	○	○	×	○
海外インターネット予約サイトへの掲載	○	○	○	○	○	○	○
外国語対応可能なスタッフの雇用	○	○	×	×	×	○	×
Wi-Fi などインターネット接続環境の整備	○	○	○	○	○	○	×
メニューや施設内の案内等の外国語表記の実施	○	×	×	○	×	○	○
国内旅行代理店へのセールス	○	×	×	×	○	×	○
国外旅行代理店へのセールス	○	○	×	×	○	×	×
コンベンション団体とのイベントへの出展	×	×	×	×	×	×	×
日本文化体験プログラムの導入	×	×	×	×	×	×	×
SNS での情報発信	×	×	×	×	×	×	×
海外の旅行雑誌やフリーペーパー等への掲載	×	×	×	×	×	×	×
その他	×	×	○	×	×	×	×

*宿泊施設 C の「⑫その他」の回答は「秋保温泉旅館組合との連携」であった。

(宿泊施設へのアンケート調査により作成)

表2 外国人観光客受け入れ積極型におけるホームページの対応言語

	英語	中国語	韓国語	タイ語
宿泊施設 A	○	○		○
宿泊施設 B	○	○	○	○
宿泊施設 D	○			
宿泊施設 E	○			
宿泊施設 G	○			

(宿泊施設へのアンケート調査により作成)

②外国人観光客受け入れに用いる主な予約方法

訪日外国人が宿泊施設を予約する際に最も多く用いられている予約方法は、「国内インターネット予約サイト (じゃらん・楽天トラベル等)」と「海外インターネット予約サイト (Expedia、Booking.com 等)」であった (表3)。両者とも7軒中5軒からの回答があった。この結果についても、前述した通り外国人がインターネットを活用して宿泊施設を探す傾向が現れている。続いて、「直接予約 (自社ホームページ・電話・FAX・メール等)」、「国内旅行代理店 (JTB 等)」、「海外旅行代理店 (東南旅行社、EGLtours 等)」がそれぞれ4軒からの回答があった。

宿泊施設 B と宿泊施設 D は海外インターネット予約サイトに自社の情報を掲載しているにも関わらず、外国人観光客から予約方法として活用されていないことがわかる（表 1 と比較）。

表 3 外国人観光客受け入れ積極型における外国人観光客誘致に用いる主な予約方法

	宿泊 施設 A	宿泊 施設 B	宿泊 施設 C	宿泊 施設 D	宿泊 施設 E	宿泊 施設 F	宿泊 施設 G
直接予約 (自社ホームページ・電話・FAX・メール等)	○	○	×	○	×	×	○
国内旅行代理店 (JTB 等)	○	○	×	○	×	×	○
国内インターネット予約サイト (じゃらん・楽天トラベル等)	○	○	○	×	○	×	○
海外旅行代理店 (東南旅行社・EGLtours 等)	○	○	○	×	○	×	×
海外インターネット予約サイト (Expedia、Booking.com 等)	○	×	○	×	○	○	○
その他	×	×	×	×	×	×	×

(宿泊施設へのアンケート調査により作成)

3) 訪日外国人観光客誘致の現状

外国人観光客受け入れ積極型宿泊施設 7 軒の年間外国人宿泊割合は平均して 2.042%となった。2018 度における秋保地区の年間外国人宿泊割合は、全体の 1%にも満たないため、外国人観光客受け入れ積極型宿泊施設 7 軒の年間外国人宿泊割合は大きく上回っていることがわかる。

日本人における宿泊利用者と日帰り利用者の平均比率は 8.68 : 1.32、外国人における平均比率は 9.98 : 0.02 であった。遠方から秋保温泉に訪れた外国人観光客の宿泊利用が多いのはもちろんのこと、日本人観光客には近場である宮城県内からの利用者が多く含まれているため、日帰りでの利用が多いことが予測される。また、宿泊利用における平均宿泊日数は日本人宿泊者が 1 日、外国人宿泊者が 1.17 日とさほど差はなかった。

① 宿泊施設における外国人宿泊者受け入れ状況

各宿泊施設に集客数 1~5 位の国・地域名とその集客方法および団体客と個人客のどちらが中心か、全宿泊者に対する割合を調査した（表 4）。

集客数 1 位の国・地域は、全宿泊施設が台湾と回答した。2 位からの回答についても全体に占める割合が多い中国とタイが並んだ。

集客方法においては、宿泊施設 A が集客数 1 位の台湾に 2 位以降の国・地域と異なるアプローチをかけているのに対して宿泊施設 B~宿泊施設 G は国・地域が異なるに関わらず、全ての国・地域に対して同一の集客方法を実施していることが明らかになった。集客の手段として最も多く用いら

表4 外国人観光客受け入れ積極型における外国人宿泊客の出発地1~5位の国・地域

施設名	順位	国名	集客方法	団体と個人どちらが中心か	全宿泊者に対する割合
A	1位	台湾	現地エージェント、国内ランドオペレーターへの情報提供	団体	—
	2位	中国	海外向けエージェントへの登録	個人	—
	3位	香港	海外向けエージェントへの登録	個人	—
	4位	タイ	海外向けエージェントへの登録	個人	—
B	1位	台湾	直接営業、ネット、エージェント	両方	1%
	2位	中国	直接営業、ネット、エージェント	—	1%
	3位	タイ	直接営業、ネット、エージェント	—	1%
	4位	香港	直接営業、ネット、エージェント	—	1%
	5位	韓国	直接営業、ネット、エージェント	—	1%
C	1位	台湾	国内・海外旅行予約サイトへの登録、海外旅行代理店へのセールス	両方	0.13%
	2位	中国	国内・海外旅行予約サイトへの登録、海外旅行代理店へのセールス	両方	0.12%
	3位	香港	国内・海外旅行予約サイトへの登録、海外旅行代理店へのセールス	両方	0.03%
D	1位	台湾	海外予約サイト	個人	0.3%
	2位	中国	海外予約サイト	個人	0.3%
	3位	ヨーロッパ	海外予約サイト	個人	0.3%
	4位	アメリカ	海外予約サイト	個人	0.1%
E	1位	台湾	—	両方	—
	2位	中国	—	個人	—
F	1位	台湾	在日AGへのセールス	団体	1%
G	1位	台湾	海外予約サイトへの登録	個人	0.49%
	2位	中国	海外予約サイトへの登録	両方	0.25%
	3位	香港	海外予約サイトへの登録	個人	0.22%
	4位	韓国	海外予約サイトへの登録	両方	0.06%
	5位	アメリカ	海外予約サイトへの登録	個人	0.06%

(宿泊施設へのアンケート調査により作成)

れているのは、エージェントへのセールスであった。その次に挙げられた回答として、全宿泊施設が実施している海外インターネット予約サイトへの登録が多かった。

1～5位の国・地域ごとの全宿泊者に対する割合をみると「全宿泊者に対する割合」は高く1%であり、ほとんどが1%を割る結果になった。

集客数1位である台湾からの訪日観光客は、団体旅行と個人旅行のどちらかに偏る傾向はみられなかったが、個人客に比べ団体客の利用が多いとの回答があったのも台湾のみであった。また、外国からの団体ツアー客受け入れを行っているのは宿泊施設D以外の6軒であった(表5)。そのうち5軒が受け入れを行っている地域として台湾を挙げており、宿泊施設Gの「中国中心(アジア系)」との回答から、台湾も含まれていると予測する。そのほかにも中国圏の受け入れが主となることがわかった。

②日本人宿泊者と外国人宿泊者の1泊2食付きの平均宿泊単価

日本人宿泊者と外国人宿泊者の1泊2食付きの平均宿泊単価は、宿泊料金を日本人観光客と外国人観光客との間で平均宿泊料金の価格帯が変わらない宿泊施設C、宿泊施設D(素泊まり料金)、宿泊施設E、宿泊施設Gの4軒と、日本人観光客の平均宿泊料金の価格帯に対して外国人観光客の平均宿泊料金の価格帯が高い宿泊施設A、日本人観光客の平均宿泊料金の価格帯に対して外国人観光客の平均宿泊料金の価格帯が安い宿泊施設B、宿泊施設Fに3分類された(表6)。観光庁が2018年に発表した「訪日外国人消費動向調査」⁶⁾から訪日外国人の1人当たりの1日の宿泊費の平均額は5,087.4円であることが明らかになっている。2食付という点を考慮した上でであっても、この平均額と比較すると高い価格設定になっていることがわかる。また、宿泊施設Cでは土日祝日や繁忙期は日本人宿泊者と外国宿泊者両者とも「15,000～20,000円未満」で値段設定を行っているとの記載があった。

③各宿泊施設の外国人観光客受け入れによるメリットとデメリット

外国人観光客を受け入れて良かった点として、「集客の増加」に関する回答が最も多かった。宿泊施設Gでは、外国人観光客誘致の利点として「平日の集客」を挙げた(表7)。そのほか、宿泊者のみではなく、秋保在住者および秋保へ訪れた観光客が利用できるラウンジを開放している宿泊施設Dでは共有スペースの活性化を挙げた。また、2016年に実施されたG7の開催場所である宿泊施設Aでは多数の国際会議の開催実績があることから集会機能を併せ持ったサービスを展開できていることがわかる。

表5 外国人観光客受け入れ積極型における外国からの団体ツアー客を受け入れ状況

	団体ツアー客を受け入れているか	受け入れ開始時期	ツアー客の発地
宿泊施設 A	受け入れている	2005	台湾
宿泊施設 B	受け入れている	2016	台湾など
宿泊施設 C	受け入れている	2015	台湾、香港、中国
宿泊施設 D	受け入れていない	-	-
宿泊施設 E	受け入れている	2014	台湾
宿泊施設 F	受け入れている	1990年代	台湾、中国
宿泊施設 G	受け入れている	不明	中国中心（アジア系）

(宿泊施設へのアンケート調査により作成)

表6 外国人観光客受け入れ積極型における
日本人宿泊者と外国人宿泊者の1泊2食付きの平均宿泊単価

	日本人観光客	外国人観光客
宿泊施設 A	15,000～20,000 円未満	20,000～25,000 円未満
宿泊施設 B	15,000～20,000 円未満	10,000～15,000 円未満
宿泊施設 C	10,000～15,000 円未満	10,000～15,000 円未満
宿泊施設 D	食事付きにしていない	食事付きにしていない
宿泊施設 E	30,000 円以上	30,000 円以上
宿泊施設 F	10,000～15,000 円未満	10,000 円未満
宿泊施設 G	15,000～20,000 円未満 (19,350 円)	15,000～20,000 円未満 (18,330 円)

(宿泊施設へのアンケート調査により作成)

また、不安な点として数々の国際会議やコンベンション会場としての開催実績をもつ宿泊施設 A であっても、ハラル食への対応ができていない現状が明らかになった。そのほか、外国語スタッフの雇用を実施していない宿泊施設 E と宿泊施設 G に加え、雇用を行っている宿泊施設 B (表 1) においても言語の壁を不安要素として抱えている。また、宿泊施設 F では外来害虫発生 (トコシラミ) のリスクが懸念されていることが回答として挙げられた。

④秋保温泉への観光客の訪問地

秋保温泉に訪れた日本人および外国人観光客の秋保温泉以外の訪問地として挙げられたのは、仙台市内の観光名所や松島、山形、蔵王などであった (表 8)。日本人観光客と外国人観光客の秋保温泉以外の目的地に相違点はほとんどみられなかった。また、秋保温泉旅館組合への聞き取りのなか

表7 外国人観光客受け入れ積極型における外国人観光客を受け入れて良かった点と不安な点

	良かった点	不安な点
宿泊施設 A	多様な国からの集客増(微増)、国際会議の受け入れ実績を作 れている (G7、ASEAN+3財務大臣・中央銀行総裁代理会 議、日中韓中央銀行局長会議など)、スタッフの語学力対応向 上への意識変化	料理の対応 (ベジタリアン対応はしているが、ハラールなどは対応しき れていない)
宿泊施設 B	集客の増加	言語、生活習慣の差異
宿泊施設 C	温泉の良さを伝えた	害虫
宿泊施設 D	共有スペースでのお客様同士の会話が活発になった	刺繍をされている方の温泉案内 (現在はシャワーブースのみ案内)
宿泊施設 E	販路拡大	言語対応、マナー
宿泊施設 F	集客の増加	トコシラミなど害虫発生のリスク、世界情勢に左右される
宿泊施設 G	平日対策として有効	言語対応、病気等の緊急時の対応マニュアルがない

(宿泊施設へのアンケート調査により作成)

表8 外国人観光客受け入れ積極型における宿泊客の主な訪問地

	日本人観光客	外国人観光客
宿泊施設 A	仙台市内 (青葉城、瑞鳳殿等)、松島、中尊寺、山寺、 山形市内	仙台市内 (名所旧跡、アウトレットモール、ショッピング)、松島、中尊寺、山 寺、山形市内
宿泊施設 B	仙台、松島、山形など	仙台、松島、東北各地
宿泊施設 C	松島、仙台	松島、仙台
宿泊施設 D	蔵王、松島	蔵王
宿泊施設 E	松島、平泉、蔵王、山寺、仙台市内 (青葉城址など)	松島、平泉、蔵王
宿泊施設 F	松島、山形	仙台、ゴルフ
宿泊施設 G	ニッカウキスキー工場、松島、青葉城	松島、青葉城、鳴子、山寺

(宿泊施設へのアンケート調査により作成)

で、訪日外国人は宮城県内を中心的に周遊するのではなく県外も合わせて回ることが多いとの話であったが、アンケート結果でもその傾向がみられた。主に宮城県を中心とした東北の観光名所を巡る際に、仙台の有名な温泉地として秋保温泉に立ち寄る訪日外国人宿泊者が多い。

4) 宿泊施設におけるインバウンド事業の今後

①今後の外国人誘致の方針

外国人観光客に対する今後の方針について、「今後も積極的に受け入れていきたい」、「②受け入れてもよい」、「受け入れを縮小したい」、「受け入れをやめたい」、「検討中」の5つの選択肢で各宿泊施設の意向を聞いたところ、全宿泊施設が今後の外国人宿泊者の受け入れについて前向きな見解を示した（表9）。

表9 外国人観光客受け入れ積極型における今後の外国人誘致の方針

	今後の方針	理由
宿泊施設 A	今後も積極的に受け入れ ていきたい	仙台空港が民営化され、台湾や中国、この秋にはタイへの直行便も就航する。都市型温泉地として外国の方々にもっと AKIU を楽しんで頂き、認知度を上げたい
宿泊施設 B	今後も積極的に受け入れ ていきたい	集客の増加のため
宿泊施設 C	受け入れても良い	インバウンド政策対応
宿泊施設 D	今後も積極的に受け入れ ていきたい	平日の集客力が上がる
宿泊施設 E	今後も積極的に受け入れ ていきたい	東北全体のインバウンド観光を広げたい
宿泊施設 F	今後も積極的に受け入れ ていきたい	以前に比べ宿泊単価も高くなり、日本人客の単価と遜色なくなって十分に収益が見込まれるため
宿泊施設 G	受け入れてもよい	特にお断りする理由がないから

(宿泊施設へのアンケート調査により作成)

②今後実施予定の外国人観光客誘致に向けた取り組み

各宿泊施設にて訪日外国人集客のために今後実施予定の取り組みとして、主に言語関係のものが多くみられた（表10）。また、外国語対応スタッフを雇用していない宿泊施設 C、宿泊施設 E では通訳機器を導入することで対応する考えであることがわかった。訪日外国人の受け入れにあたって、表示案内や、トイレの改修、Wi-Fi の整備など施設内の整備を実施予定の宿泊施設もみられた。

今後施設の受け入れ整備を進めていくなか、宿泊施設 E の「訪日外国人の受け入れに対する施設

独自での様々な整備は予算面で厳しいため、経産省や観光庁が行う補助金制度は大変ありがたい」とアンケート記入欄の欄外に記載があり、補助金なしには大規模な施設整備を進めるのは難しいという現状が指摘できる。

表 10 外国人観光客受け入れ積極型における今後実施予定の外国人観光客誘致に向けた取り組み

宿泊施設 A	キャッシュレス決済対応端末の整備、タイ語や多言語の更なる表示案内、和式トイレの完全洋式化（一部和式あるため）
宿泊施設 B	—
宿泊施設 C	通訳機器整備
宿泊施設 D	—
宿泊施設 E	wi-fi 工事中、ポケットーク（翻訳機器）導入予定
宿泊施設 F	HP 多言語化
宿泊施設 G	—

（宿泊施設へのアンケート調査により作成）

2. 外国人観光客受け入れ消極型宿泊施設における訪日外国人観光客の受け入れ態勢

全 4 軒の外国人観光客受け入れ消極型宿泊施設を宿泊施設 H、宿泊施設 I、宿泊施設 J、宿泊施設 K とする。この 4 軒のうち 2 軒が秋保温泉組合加盟旅館である。

1) 訪日外国人観光客の集客を実施していない理由

外国人観光客の集客を実施しない理由として、「語学ができるスタッフが少ない」（宿泊施設 H）、「内部の体制が作れていない」（宿泊施設 J）「客室数が 16 と少ないから。また、ほぼ全日日本人の宿泊者で 85%の集客を維持できている」（宿泊施設 K）との理由が挙げられた。外国人観光客の受け入れ態勢が整っていないことがわかった。

宿泊施設 K の回答に着目し、外国人観光客受け入れ積極型宿泊施設と外国人観光客受け入れ消極型宿泊施設の部屋数と比較すると、施設名が不明である宿泊施設 F を除いた外国人観光客受け入れ積極型宿泊施設 6 軒の平均部屋数は 126 部屋であった。一方、宿泊施設 H については 52 室の約 300 人収容と中規模施設だが、その他の 3 施設については、宿泊施設 I が 7 部屋、コテージタイプの宿泊施設 J は 17 棟、宿泊施設 K は 16 部屋と収容規模が小さいため、外国人の団体観光客の受け入れに向いておらず、日本人宿泊者の集客で施設運営が成り立っていることと推測する（各宿泊施設公式 HP 参照）。

また、「今後、貴施設で外国人旅行者の集客に着手する予定はありますか。」の設問に対して「ぜ

ひ取り組みたい」「取り組んでも良い」「取り組む予定はない」「検討中」の選択肢を提示したところ、訪日外国人観光客誘致に対して前向きな姿勢を示したのは宿泊施設 I のみであった（表 11）。

表 11 外国人観光客受け入れ消極型における今後の外国人観光客誘致の方針

宿泊施設 H	検討中
宿泊施設 I	ぜひ取り組みたい
宿泊施設 J	検討中
宿泊施設 K	取り組む予定はない

（宿泊施設へのアンケート調査により作成）

2) 訪日外国人観光客誘致の現状

外国人観光客受け入れ消極型宿泊施設 4 軒の年間外国人宿泊割合は平均して 1.504%となった。日本人における宿泊利用者と日帰り利用者の平均比率は 7.33 : 2.67、外国人における平均比率は 9.33 : 0.67 であった。また、宿泊利用における平均宿泊日数は日本人宿泊者が 1.125 日、外国人宿泊者が 0.875 日とさほど差はなかった。外国人平均宿泊日数に関しては、宿泊施設 J は訪れる外国人観光客は隣接する喫茶店や工芸品の展示・販売ギャラリーなどの日帰り利用のみで宿泊利用がないため宿泊日数を 0 日と回答しており、1 日を割る結果となった。

① 宿泊施設における外国人宿泊者受け入れ状況

外国人観光客受け入れ消極型宿泊施設が受け入れている国・地域では、秋保温泉の外国人宿泊者数において半数以上を占める台湾・中国に加え、近年客数が年々増加しているアメリカ・カナダの 2 カ国の名前も挙がっている（表 12）。

外国人観光客が施設予約の際に用いる主な予約方法としては、施設への電話予約かインターネットからの予約のどちらかである。外国人受け入れ積極型宿泊施設では、外国人観光客受け入れ積極型宿泊施設とは異なり、海外インターネット予約サイトへの掲載やエージェントへの働きかけがないことがわかる。

また、全宿泊施設が団体ツアー客の受け入れを実施していないため個人客が中心となっている。宿泊施設 I では経営者の外国人の友人が宿泊する機会が多いということもあり、全宿泊者に対する割合が 2~3%であったが、それ以外の宿泊施設は 1%を割る結果になった。

② 日本人宿泊者と外国人宿泊者の 1 泊 2 食付きの平均宿泊単価

宿泊施設 H では日本人観光客の平均宿泊料金の価格帯に対して外国人観光客の平均宿泊料金価格帯が高くなっている。宿泊施設 I（素泊まり）、宿泊施設 K では同じ平均宿泊料金となった（表 13）。

表 12 外国人観光客受け入れ消極型における外国人宿泊客の出発地 1～5 位の国・地域

施設名	順位	国名	集客方法	団体と個人どちらが中心か	全宿泊者に対する割合
H	1位	中国	TEL、インターネット	両方	1%未満
	2位	アメリカ	TEL、インターネット	個人	1%未満
	3位	ロシア	TEL、インターネット	個人	1%未満
	4位	オーストラリア	TEL、インターネット	個人	1%未満
	5位	フィリピン	TEL、インターネット	両方	1%未満
I	1位	アメリカ	—	—	3%
	2位	カナダ	—	—	2%
J	1位	中国（香港・台湾）	—	個人	0%
	2位	欧米	—	個人	0%
K	1位	台湾	楽天のネット宿泊予約サイト	個人	0.016%
	2位	中国	楽天のネット宿泊予約サイト	個人	—
	3位	香港	楽天のネット宿泊予約サイト	個人	—

(宿泊施設へのアンケート調査により作成)

表 13 外国人観光客受け入れ消極型における
日本人宿泊者と外国人宿泊者の 1泊2食付きの平均宿泊単価

	日本人観光客	外国人観光客
宿泊施設 H	20,000～25,000 円未満	25,000～30,000 円未満
宿泊施設 I	食事付きにしていない	食事付きにしていない
宿泊施設 J	10,000 円未満	—
宿泊施設 K	10,000～15,000 円未満	10,000～15,000 円未満

(宿泊施設へのアンケート調査により作成)

③秋保温泉の宿泊者が訪問する地域

外国人観光客受け入れ積極型宿泊施設の回答（表 8 参照）との違いはあまりみられず、日本人観光客と外国人観光客の両者とも宮城県を中心に東北各地を巡る結果となった。また、宿泊施設 K の回答から、秋保温泉は東日本大震災の被災地を訪れる際に宿泊地および県内観光の目的地として設定されるケースがあることがわかった（表 14）。

表 14 外国人観光客受け入れ消極型における宿泊客の主な訪問地

	日本人観光客	外国人観光客
宿泊施設 H	市内観光、松島、鳴子、海の杜水族館、山形蔵王	市内観光、松島、中尊寺
宿泊施設 I	松島、東松島、山寺	—
宿泊施設 J	—	—
宿泊施設 K	平泉の世界遺産、被災地（釜石、宮古、石巻）	遠刈田のキツネ村

(宿泊施設へのアンケート調査により作成)

V. 秋保温泉で訪日外国人観光客が増加した要因—むすびにかえて—

調査の結果、秋保温泉が外国人観光客の受け入れを実施し、外国人観光客数が近年増加した要因として、以下の4点が考えられる。

まず1つ目に、秋保温泉を訪れる日本人観光客の減少を背景に、集客数を増やし宿泊施設の稼働率を上げるために外国人観光客の受け入れを開始したことが挙げられる。鈴木(2013)と玉木(2014)によると、全国各地の温泉地がバブル崩壊後の国内経済の低迷による宿泊客数の減少の対応策として外国人誘致に着手している。また、秋保温泉では、インバウンド事業に着手をしたのが2012年の東日本大震災後である。よって、バブル崩壊後の集客減少に加え、震災による集客の減少も秋保温泉旅館組合および各宿泊施設が外国人観光客の受け入れへの着手した要因になっていると考えられる。

2つ目に、秋保温泉が仙台駅および仙台国際空港から近距離に立地していることが挙げられる(図12)。2章でも述べたように、秋保温泉は新幹線の停車駅である仙台駅から車で約30分、株式会社タケヤ交通が運行する西部ライナーを利用した場合も約30分で行くことが可能である⁸⁾。また、仙台国際空港からは株式会社タケヤ交通が運行する仙台西部エアポートライナーにて約40分で行くことができ、アクセスが良い⁹⁾。また、各宿泊施設からも仙台駅からの無料シャトルバスが運行している。

九鬼・清水(2019)の研究において韓国、台湾、中国の順に直行便の有無が延べ宿泊者数に大きな影響を及ぼすことが明らかになっている。2019年12月の各国と仙台国際空港を結ぶ直行便数を調査すると、台湾(台北)が209便、韓国(ソウル)が62便、中国(大連・北京・上海)が52便という結果になった¹⁰⁾。2018年の仙台市における204,340人の外国人宿泊者数のうち43%が台湾からの観光客が占めることも直行便数の多さが関係すると推測される。そのため、台湾や中国などアジアから宮城に訪れた訪日外国人観光客は、宮城県で仙台駅および仙台国際空港からのアクセスが優れている有名温泉地として旅行日程に取り込むケースが多いことが考えられる。

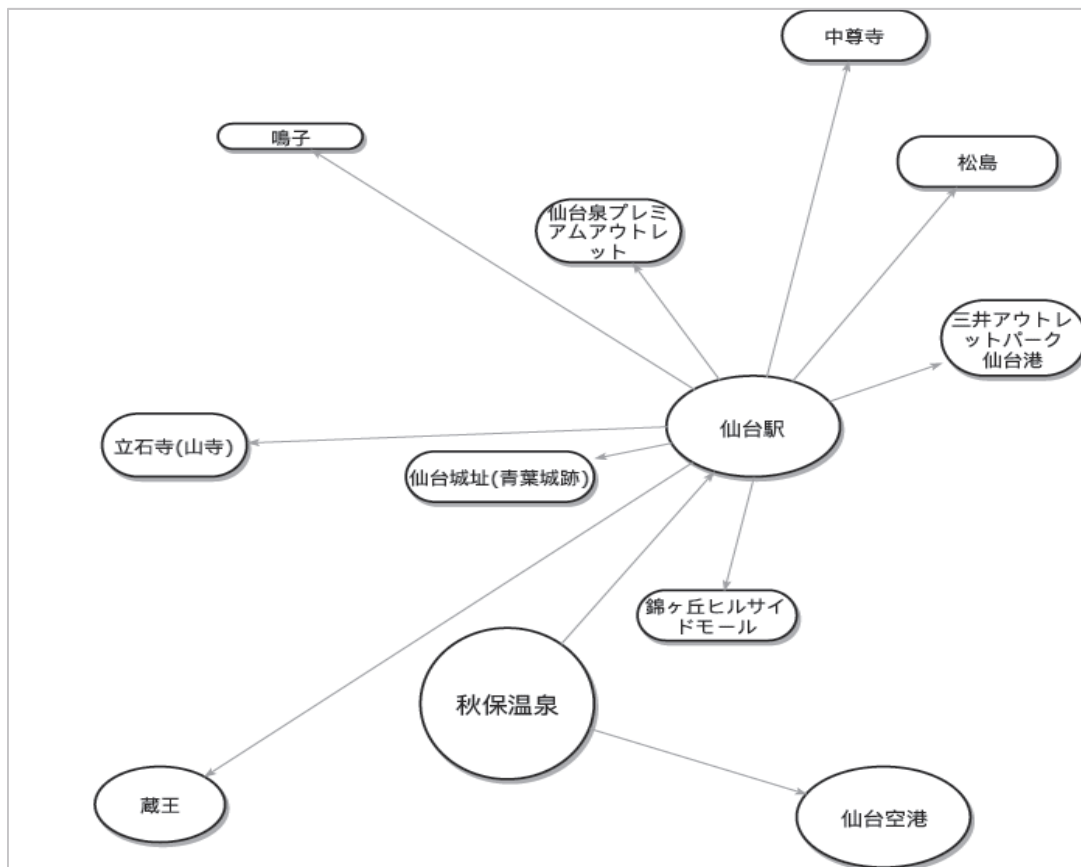


図 12 秋保温泉と主要な観光資源の位置関係

(筆者作成)

仙台駅および仙台国際空港から近距離に立地する点に関連して、秋保温泉の観光資源への近接性が挙げられる。秋保温泉からの二次交通が弱い点が秋保温泉の課題として挙げられるが、自家用車利用者以外の秋保温泉の観光客のほとんどが利用する仙台駅からの各所への交通網は非常に発達している。新幹線や、鉄道、市営バス、仙台市地下鉄南北線に加え、2015年には市内を東西線も開通した。IV章で述べたように、秋保温泉に来訪した外国人観光客が仙台市内や松島の観光資源、アウトレットに加え、県外の山寺（山形県）や世界遺産である平泉（岩手県）へ訪れていることが明らかになった（表 8・14 参照）。秋保温泉が、交通網が発達している仙台駅に近接するために宮城県内および東北各地の観光地へ訪日外国人観光客が訪問する際の利便性が高いことも、宿泊地として選択される1つの要因として考えられる。

3つ目に、台湾人の日本および日本文化への関心が高いためである。関心の強さは、日本に対して素朴な憧れを持つ人を意味する「哈日族（ハーリーズー）」という呼称が存在することからも読み取れる。2017年の観光庁の「訪日外国人消費動向調査」¹¹⁾によると、台湾人が日本への旅行に期待する内容として、「日本食を食べること」、「ショッピング」、「自然・景勝地観光」、「繁華街の街歩

き、「旅館宿泊」、「温泉入浴」が上位に上がっている。また、JNTO（日本政府観光局）の調査（前出の注 11 参照）によると、季節の変化が乏しい台湾では、桜や紅葉など、四季折々の風景は、台湾人にとっては大変魅力的に映り訪日旅行の目的の 1 つともなっており、JTB 総合研究所とナビタイムジャパンの共同調査¹²⁾によると、訪日旅行で「田舎を訪れるのが好き」という人が 55.8%を占めている。また、訪日サイクリングツアーが販売されるほど、台湾ではサイクリング観光が人気を集めている。

温泉旅館は台湾人にとって日本食や温泉、畳など日本文化に触れることの出来る人気の観光資源の 1 つである。また、秋保温泉は山間部かつ農村部であるため田園風景のほか、桜や紅葉も合わせて楽しむことが可能である。また、Ⅲ章で前述したとおり、人気を集める秋保温泉でのサイクルツーリズムを促進するため、秋保・里センターや仙台市観光課から秋保のサイクリングマップが英語版含め、いくつか作成されている。また、本稿から秋保温泉の外国人におけるレンタサイクルの利用は台湾人が多く、サイクルツーリズムは台湾人のニーズに適している。加えて、宮城県は仙台駅周辺ファッションビルや家電専門店が立ち並び、アウトレットも複数立地しているため、ショッピングを好む台湾人にとって最適な観光地の 1 つとして位置づけられると考えられる。

JNTO（日本政府観光局）の調査結果内（前出の注 11 参照）で、台湾は観光地を容易に効率よく回ることでできる団体旅行の割合が高いことが特徴であることがわかっている。秋保温泉では、Ⅳ章のアンケートの分析結果において、「団体と個人どちらが中心か（台湾人）」という設問に対して 7 軒中「団体」と回答した宿泊施設が 2 軒、「両方」と回答した宿泊施設が 3 軒であった（表 4 参照）。このことから、団体の台湾人の宿泊者が多く訪れていることがわかる。また、これは、団体旅行の受け入れを実施する宿泊施設のほとんどがツアー客の発地として台湾を挙げている（表 5 参照）。よって、秋保温泉における訪日外国人宿泊者の割合のうち、台湾人が半数を占めているのは団体客の受け入れが多いことも 1 つの要因であると考えられる。

4 つ目に、秋保温泉旅館組合が近年タイに特化した PR 活動を展開しているためである。Ⅲ章で述べたように、秋保温泉旅館組合では 2014 年から PR を開始した。タイからの宿泊者数は秋保温泉における外国人宿泊者数のうちの 10%前後を推移している状況だが、PR を開始した 2014 年のタイからの受け入れが 23 人であったのに対し、2017 年には 790 人の入り込みを記録した（図 5 参照）。タイからの観光客数数の増加は各宿泊施設へも影響を及ぼしている。Ⅳ章で述べたように、宿泊施設 A と宿泊施設 B が「受け入れている外国人観光客で集客数 1~5 位の国」でタイと回答しており（表 4 参照）、それぞれ自社の HP をタイ語に対応させる（表 2 参照）と共に、タイ人の集客方法として宿泊施設 A では「海外向けエージェントへの登録」を、宿泊施設 B では「直接営業、ネット、エージェント」と回答している。個々の宿泊施設がタイへのアプローチをかけたことも集客の増加の 1 つの要因なのではないかと推測する。

松井ほか（2016）によると、タイは「日本の四季」への関心や「自然体験ツアー・農漁村体験」の実施比率が高く、日本での地方観光を好む傾向があることが明らかになっている。加えて、タイでは「新たな観光」を好む傾向があることも明らかになっている。秋保温泉旅館組合では、今後も秋保の自然を生かした多様なニューツーリズムを展開していく戦略を打ち立てているとともに、仙台国際空港とバンコク間の便が2019年の10月末に就航したことからタイからの観光客がさらに増加すると予想される。

謝辞

秋保温泉旅館組合事務局長の佐藤 司氏には、聞き取り調査および研究の要となるデータ提供に快く協力していただきました。また、秋保温泉の宿泊施設の皆様にはアンケート調査で、宮城県経済商工観光部観光課、仙台市文化観光局観光交流部、松島町産業観光課の皆様にはデータの提供にご協力いただきました。厚く御礼を申し上げます。

なお、本稿は、半澤が2020年3月に宇都宮大学地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科に提出した卒業論文をもとに作成したものであり、鈴木が秋保温泉およびその周辺観光地への現地視察（2020年7月12～14日）を実施した上で加筆・修正を行った。

注

- 1) I章1節については、秋保温泉旅館組合実施事業冊子を参考とした。
- 2) II章1項は仙台市史編さん委員会（2004：365-375）および新谷（2018）をもとに作成した。
- 3) 「宮城県松島町におけるインバウンドの取組」, 宮城県松島町産業観光課観光班,
<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/soukou-magazine/1712matsushima.pdf>, 最終閲覧日（2019年12月16日）
- 4) 杉山 渉, 関 祥吾, 「旅館業界とインバウンド旅行者」, 『ファイナンス』2018-12, pp.58-59,
https://www.mof.go.jp/public_relations/finance/201812/201812p.pdf, 最終閲覧日（2019年12月26日）
- 5) 観光庁, 「訪日外国人旅行者の国内における受入環境整備に関するアンケート」結果, 2017,
<http://www.mlit.go.jp/common/001171594.pdf>, 最終閲覧日（2019年12月26日）
- 6) 観光庁, 「【訪日外国人消費動向調査】2018年（平成30年）の訪日外国人旅行消費額（確報）」,
2019-3, <https://www.mlit.go.jp/common/001283138.pdf>, 最終閲覧日（2019年12月26日）
- 7) 「秋保 川崎 仙台西部ライナー」, 『株式会社タケヤ交通 公式ホームページ』,
<http://takeyakoutu.jp/sendaiseiburaina.html>, 最終閲覧日（2019年12月26日）
- 8) 「仙台西部エアポータルライナー」, 『株式会社タケヤ交通 公式ホームページ』,

- http://takeyakoutu.jp/sendai_airport_liner.html, 最終閲覧日 (2019年12月26日)
- 9) 「国際線 今月のフライトスケジュール (目的地別)」, 『仙台国際空港公式ホームページ』, <https://www.sendai-airport.co.jp/>, 最終閲覧日 (2019年12月26日)
- 10) 観光庁, 「訪日外国人消費動向調査」, 2018-3, <http://www.mlit.go.jp/common/001226297.pdf>, 最終閲覧日 (2019年12月26日)
- 11) JNTO (日本政府観光局), 『JNTO 訪日旅行誘致ハンドブック 2019 (アジア 6 市場編)』, pp.104-118, https://www.jnto.go.jp/jpn/inbound_market/taiwan02.pdf, 最終閲覧日 (2019年12月26日)
- 12) JTB 総合研究所, ナビタイムジャパン, 「台湾からの旅行者の心理と行動に関する調査研究 (ナビタイムジャパン・JTB 総合研究所 共同調査)」, 『JTB 総合研究所 公式ホームページ』, <https://www.tourism.jp/wp/wp-content/uploads/2017/03/taiwanese-tourist-mind-action.pdf>, 最終閲覧日 (2019年12月26日)

参考文献

- 九鬼令和・清水哲夫 2019. 訪日外国人旅行者 (中国、韓国、台湾) の延べ宿泊者数に対する影響要因についての研究. 観光研究 30(2) :5-13.
- 新谷 敬 2018. 地域活性化に挑む一過性で終らせない 平安時代から続く古湯を活かしインバウンド観光狙う秋保温泉. ニューリーダー31(4) :73-75.
- 鈴木 晶 2013. 別府における国際観光に関する考察. 別府大学短期大学部紀要 32:75-83.
- 仙台市史編さん委員会 2004. 『仙台市史 通史編 5』宮城県教科書供給所.
- 玉木栄一 2014. 伊東市の開発の歴史と今後の課題. 玉川大学観光学部紀要 2:13-35.
- 松井祐樹・日比野直彦・森地 茂・家田 仁 2016. 訪日外国人旅行者の個人行動データを用いた 訪問地および観光活動に着目した観光行動分析. 土木学会論文集 D3(土木計画学) 72(5) :533-546.